

# いもう 葦毛通信

平成 27 年 7 月 3 日  
豊橋市文化財センター  
TEL : 0532-56-6060

No. 24



トキシウ

## 1、2015 モニタリング報告-2

葦毛湿原では、春の花が終わり、夏の花に変わりつつあります。トキシウやカキランはほぼ終わり、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、ミカヅキグサ等が咲き始めました。

J・L地点の明るくなった林内では、アギスミレ、フモトスミレがたくさん発芽しました。来春には多くの花が咲くものと思います。春に発芽したサワオグルマは、今年は花が咲きませんでしたが、来春には花を咲かせてくれると思います。



トキシウ



カキラン

大規模植生回復作業は、11月～3月まで行っていますが、この期間は、木を伐ったり除草したりして、環境を攪乱していることとなりますので、春に咲く花には発芽のための準備期間が無いようです。成長して養分を溜め、開花するには時間がかかるようです。

コシダやネザサの根を除去して播き出しを行ったC・G地点でも、春の植物はあまり見られませんが、これから夏から秋にかけて開花するいくつかの植物が発芽してきています。ミカヅキグサが開花し始め、シラタマホシクサも発芽しているようです。梅雨になり、これから発芽する植物が増えてくるものと思われます。どのような植物が発芽してくるかは、今後確認して報告します。

### コバノトンボソウ

平成 24 年度の大規模植生回復作業の後、平成 25 年に 8 本、平成 26 年に 18 本、に増え、今年は 23 本になりました。徐々に増えていくことが分かります。今は湿地の中心部で木道から見るのは難しい状況ですが、かつては、あちこちに沢山あったそうで、今後は木道沿いでも見られるようになるかもしれません。



コバノ トンボソウ



ササユリ

## ササユリ

ササユリは、葦毛湿原では地上絶滅してしばらく見ることはできませんでしたが、C地点の二の沢で復活し、7輪の開花を確認しました。木を伐って明るくなったことにより、埋土種子から復活したものと考えられます。

## ノハナショウブ

ノハナショウブは、昨年数が増えましたが、今年はさらに増えて、湿原のあちこちで見られるようになりました。昨年は6月18日に178輪の開花を確認しましたが、今年は6月13日に213輪の開花を確認しました。下の写真には41輪が写っていますが、I地点のこの群落では、総数で86輪が開花しました。ノハナショウブは、これまで湿地内で散発的に見られていましたが、多くの花が集中して咲く地点がいくつも見られるようになりました。大規模植生回復作業により、明るくなり、水の流れが復元されて水量が増えた地点に多く見られるようです。

しかし、毎年同じ所で同じだけ花が咲くのではないようです。昨年たくさん咲いたところでも、今年は少なくなっているところや、現在でも昨年結実したものが枯れて残っているところも見られ、そこには花はあまりありません。常に変化していくのが、本来の自然なのかもしれません。



ノハナショウブ（6月13日）左の群落で41輪咲いています。

## 葦毛湿原・ナガバノイシモチソウ自生地 大規模植生回復作業報告会・現地説明会

愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」と豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、平成24年度から、**大規模植生回復作業**を行っています。報告会では、これまでの様々な取り組みの成果をご紹介します。また、午後2時から葦毛湿原の現地で説明会を行います。詳しくは「広報とよはし7月1日号」に掲載されています。

**報告会**: 7月26日(日)10:00~12:00、カリオンビル(豊橋市松葉町二丁目)、申込不要  
当日先着順、定員99名

**現地説明会**: 7月26日(日)14:00~16:00、長尾池公園東屋(葦毛湿原第2駐車場から東へ約100m)、申込は豊橋市文化財センター(0532-56-6060)まで

## 2、葦毛湿原の動物調査ー1

生物の多様性を保全していくには、植物だけでなく、動物や昆虫についても配慮する必要があります。葦毛湿原では、指定地内の林内に自動撮影のカメラを設置して写真撮影を行っています。2015年の3月末までの一年間に、延べ60回の撮影ができました。様々な動物が写り、一定の傾向もわかりましたので、以下に紹介します。

### 1、調査方法

指定地南東部の林内で動物の通り道と思われる場所に自動撮影カメラを設置し、24時間自動で写真と15秒の動画撮影を行っています。実施期間は、2014年4月5日から開始し、現在も継続中です。ただし、設置地点が昨年度の植生回復作業予定地内となり、木を伐って明るくなりすぎたので、木を伐っていない森の中にカメラを10mほど動かしました。

撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためには、フラッシュが必要になるので動物を驚かさないようにして、継続して調査をするためです。

### 2、調査結果

4月5日に設置し、3月31日までの間に、延べ60回撮影されました。内訳は表1、図1の通りです。最も多いのは、ニホンイノシシで35回も撮影されました。次がニホンノウサギの9回で、この2種類で全体の70%以上になります。

これ以外は、1～3回で少数です。

表1 種別撮影回数一覧表

種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ニホンイノシシ	35	2		2	4	6	9	7	1		1		3
ニホンノウサギ	9	1	1	1					2	2		1	1
ホンドタヌキ	3								3				
ホンドキツネ	3	1									2		
ハクビシン	3									2			1
ニホンイタチ	2								1	1			
ホンドテン	2							1				1	
トラツグミ	1								1				
キジバト	1									1			
ニホンリス	1												1
合計	60	4	1	3	4	6	9	8	8	6	3	2	6

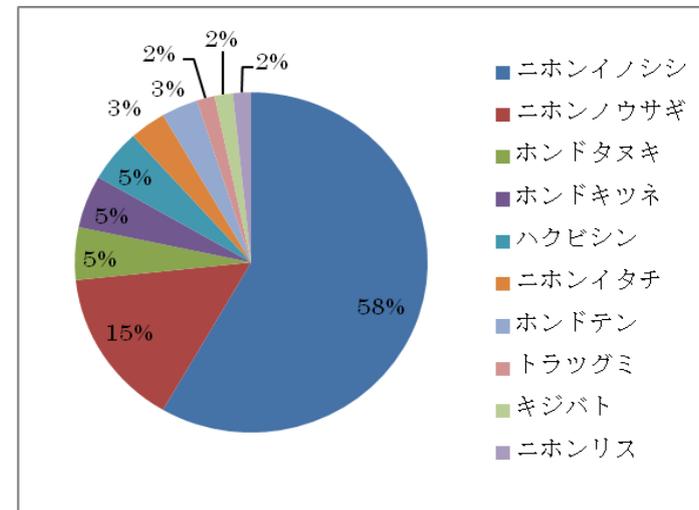


図1 種別撮影回数

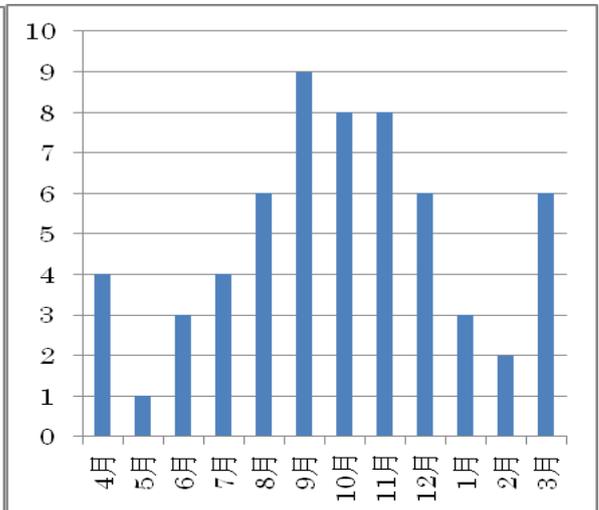


図2 月別撮影回数

全体の傾向として、9～11月がピークになっており、実りの秋を中心に動物が集中して活動しているのだと思います。撮影されたのは、ほとんどが夜間です。昼間の撮影はごくわずかで、鳥類のトラツグミ・キジバトやイノシシでした。

動物の出現頻度も偏りが見られます。イノシシは7～10月に集中していますが、この期間は他の動物がほとんど見られません。理由はよくわかりませんが、イノシシを怖がっているのかもしれませんが、イノシシが見られなくなると、他の動物が見られるようになります。ノウサギはほぼ毎月写りましたが、これ以外は年に1～2回程度の撮影です。

ホンドタヌキは11月の3回、ホンドキツネは4月と1月の3回、ハクビシンは12・3月の3回、ニホンイタチは11・12月の2回、ホンドテンは10・2月の2回、トラツグミは11月、キジバトは12月、ニホンリスは3月の各1回です。

ニホンノウサギはイノシシが多く見られた7～10月以外はほぼ毎月見られました。また、ニホンノウサギは指定地内の複数個所で糞を確認しています。特に、昨年(2013年)の10月3日にイヌノハナヒゲの刈り取りを行ったB地点では、約50㎡の範囲で6か所のニホンノウサギの糞が見つかりました。複数の個体が利用しているのか、1個体がたびたび訪れているのかは、はっきりとはわかりませんが、糞には新しいものと古いものがあり、ある程度長期間にわたる結果であると思われます。ニホンノウサギの食痕は、葦毛湿原周辺の林内でも所々で見られますが、湿原内ではあまり目立ちません。少なくとも現状ではニホンノウサギの食害により、葦毛湿原の植物がダメージを受けているという心配は無いようです。

(イノシシは、次号で詳しく報告します。)



ホンドキツネ(4月20日)



ニホンノウサギ(4月22日)



ホンドタヌキ(11月9日)



ハクビシン(12月8日)